

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

| ・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定<br>・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施<br>・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 |                                |   |   |   | ・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理 | 自己評価  | 学校関係者評価  |   |  |  |
|--|--------------------------------|---|---|---|---------------------------|---|--|---|--|--|
| 分野   | 評価項目                           | 自校の取組   | アンケート項目・各種指標  | アンケート結果・各種指標結果  | 評価日                       | 評価者・組織  | 評価日  |   |  |  |
| 1<br>確かな学力   | 言語能力の育成<br>学習規律の確立<br>家庭学習の習慣化 | ・思考力・判断力・表現力等を高めるためのシンキングツールの活用<br>・「話す・聞く」態度の育成のため、低・中・高学年でステップアップできるように共通理解をしての取組<br>・自分で課題を見つけ取り組む自主学習の定着化 | 各クラスでのシンキングツール活用状況。子どもには考える力が身に付いていますか。<br>人の話をしっかりと聞いていますか。                                    | ・各クラスでシンキングツールの活用増加。<br>・「身についている」約80%<br>・「聞いていて」「だいたい聞いている」と答えた児童96.3%                                      | ⇒                         | ・シンキングツールを積極的に活用することで、自分のおもいや考えを整理し、発表する力が身に付いてきた。保護者アンケートでも「身についている」の回答率が7月より約4%上がり、低学年でも効果が得られた。<br>・話ししている内容についての的確な答えができるよう聞き方に対する指導をしていく。<br>・話し力については、聞く姿勢は身に付いているが、内容をしっかりと聞いているかについてはまだ課題が残る。<br>・家庭学習については宿題のみで終わっている児童も多くみられ、自ら学ぼうとする力を育てていきたい。 | ・シンキングツールを活用することで、考えの整理がつき、発表するための手段として有効であるので今後も引き続き活用していく。<br>・家庭学習の手引を年度当初に配布し、自ら学ぼうとする力を育てていく。                               | ⇒ | ・後期に入り学習の内容が難しくなっているが、授業が楽しいと回答している児童が増えている。<br>⇒                      | ・わかりやすく楽しい授業になるよう工夫していく。<br>・家庭学習の手引を年度当初に出し、保護者の方にも理解、協力していただき、学力の定着を図ることができるようにしていく。                             |
| 2<br>豊かな心  | 感動できる子<br>感謝できる子<br>関係を大切にできる子 | ・音読発表会や体験活動を通して、感動を言葉で表現する場の設定<br>・PTA挨拶運動<br>・ルールやマナー等の理解と実践(学級指導)<br>・地域行事の参加<br>・地域の取組の一部で司会進行運営を担当        | 自分の考えを発表していますか。   | ・「すすんで発表している」「時々している」と答えた児童約72%   | ⇒                         | ・シンキングツールの活用により、自分の考えを整理できるようになったことで発表する機会も増えってきた。<br>・学校では挨拶できる子が増えてきたが、地域ではばらつきが見られる。地域行事に参加する児童も増えており、司会進行を担うことで高学年の参加も増えた。<br>・地域行事で活躍できる場を設定し、地域の一員としての自覚をもたせる。  | ・シンキングツールを活用し、発表する機会を多くもち、自分のおもいや考えを伝えることができるようする。<br>・児童会や委員会などを活性化させ、挨拶運動を取り入れる。   | ⇒ | ・挨拶をしている児童としていない児童が極端である。気持ちのよい挨拶ができるよう学校でも指導をしてほしい。<br>⇒              | ・挨拶の大切さを学級指導し、気持ちのよい挨拶ができるよう、委員会を中心挨拶運動などを実施していく。<br>・「〇の日運動」の前日にメール配信でお知らせすることで保護者にも協力してもらうことができた。今後も継続して取り組んでいく。 |
| 3<br>健やかな体   | 基本的な生活習慣の育成<br>体力の向上           | ・生活アンケート<br>・生活点検<br>・部活動やクラブ活動の充実<br>・ランニングサークル参加状況  | 何時に寝ましたか。/起きましたか。朝/昨夜歯磨きをしましたか。ハンカチ・ティッシュはポケットに入っていますか。<br>・部活動やクラブ活動は楽しいですか。<br>・ランニングサークル参加状況 | ・10時までに寝た児童23.2%<br>・7時までに起きた児童66.2%<br>・「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童約87%<br>・ランニングは4～6年はほぼ全員参加。1～3年は登録者数のうち8割くらいが参加。 | ⇒                         | ・基本的な生活習慣では、7月に比べ、10時までに寝た児童は約30%減、7時までに起きた児童も約5%減であった。寒くなると遅く起きる傾向がみられる。また、ハンカチ・ティッシュの携帯については、調べ時間の時には持つてこようとする意識が高くなるが声をかけないと定着できていない。<br>・部活動やクラブ活動は楽しんでやっている児童が多く、ランニングも前年度よりもさんの児童が継続的に参加できている。  | ・担任、養護、委員会から呼びかけやアピールをする。点検週間の実施の回数を増やし、ハンカチ・ティッシュの携帯率を高にする。<br>・ランニングは高学年の参加率が低学年にも影響している。高学年の活動を活性化させることで低中学年のランニング参加率を増やしていく。 | ⇒ | ・寒くなると体調を崩しやすい児童が増えてくる。手洗いうがいなどの習慣、ハンカチ、ティッシュの携帯、朝ランニングの継続など活動を続けてほしい。 | ・委員会等を中心に、呼びかけや点検週間などを企画し実施していく。<br>・ランニングについては高学年は大文字駅伝を目標に、低中学年は継続して走ることを目標に取り組んでいく。                             |
| 4<br>独自の取組   | 図書館指導の充実<br>情報発信の充実            | ・図書室終日開放<br>・図書館運営指導員との連携<br>・放課後まなび教室での図書貸出<br>・積極的なホームページの更新  | 図書館利用状況<br>学校ホームページの更新状況  | ・授業での図書館活用増加<br>・図書館運営支援員と連携した授業の実施<br>・月1回放課後まなび教室への30冊貸出<br>毎日更新  | ⇒                         | ・研究との関連もあり、学校図書館を積極的に活用しようという意識が教職員にも芽生えてきた。調べ学習もインターネットだけでなく、書籍とインターネットの両方を活用する児童も増えてきた。<br>・情報発信については毎日更新できている。特に宿泊学習の時には各活動ごとに更新している。  | ・図書館教育主任を中心とした、調べ学習等に必要な本などを事前に集めておいてもらいうなど、図書館運営支援員との連携を図る。<br>・情報発信については毎日更新し学校での様子を積極的に伝えていく。                                 | ⇒ | ・放課後まなび教室で毎月30冊本を貸出してもらっている。図書館運営支援員に1～6年児童が読みやすい本を選んでもらっている。助かっている。   | ・放課後まなび教室での本の貸出は児童の読書活動にも役立っている。今後も継続して行っていく。  |

## 4 総括・次年度の課題

確かな学力を身に付ける取組については、アンケートの結果からも少しずつ伸びてきている。おもいや考えを整理するためシンキングツールを積極的に活用したことも効果が見られる。今後も、さらなる取組を進め、子どもが主体の授業になるよう、教職員間でも研修を深め、努めていきたい。

挨拶については児童は進んでできるようになったと感じているが、児童によりばらつきがある。児童会や委員会など、児童全体がしっかりと挨拶できるような取組を考えていきたい。

児童・学校・PTA・地域の四者会議を行い、今年度は「安全について」をテーマに児童会が中心となり進めることができた。次年度も、さらに発展させ、具体的な取組を進めていきたい。